

## A．主な動き

### 1．経済

- ・30日、経済省は、これまでの国内外からの投資誘致制度について再考し、投資誘致戦略を修正予定である旨発表。
- ・2日、戦略的計画に関する省庁間委員会は、2012年から2014年までの中期的予算計画を採択。財務省によれば、2012年から2014年迄の間のGDP成長率を5%以内、またインフレ率は2012年に6.9%、その後は5%と想定されている。
- ・2日、カルムイク経済次官は、競争と国家による支援に関する法案が9月1日迄に閣議に提出される予定である旨述べ、これにより、自由貿易圏創設のための欧州委員会のガイドライン導入に向けた行動計画が遵守される旨発言。
- ・3日、国家エネルギー規制庁は、国際的な原油価格の上昇により、2011年の1 - 6月期に、ガソリンの市場価格が前年同期比で17.3%、ディーゼル燃料の市場価格が24.7%上昇、それぞれ1リットル当たり15.29レイ及び14.30レイとなった旨発表。
- ・4日、中央銀行は、7月29日時点での外貨支払い準備高がモルドバ史上最高となる19億8,800万ドルに達した旨発表。

### 2．沿ドニエストル

- ・2日、ポポフ外務・欧州統合次官は、モスクワにおいて、カラシニコフ外務次官と会談、二国間関係及び沿ドニエストル問題、特に次回「5+2」者会合につき協議。
- ・2日、ヤストレブチャク沿ドニエストル「外相」は、アブハジアを訪問、アムラクワブ・アブハジア「副大統領」と会談、沿ドニエストル・アブハジア関係、沿ドニエストル選挙監視ミッションのアブハジア「大統領」選挙への派遣等につき協議。
- ・2日、スミルノフ沿ドニエストル「大統領」は、沿ドニエストル問題は、露軍部隊の撤退及び沿ドニエストルに対する特別なステータスの付与ではなく、沿ドニエストル独立の承認によってのみ解決可能である旨発言。
- ・4日、ヤストレブチャク沿ドニエストル「外相」は、キシマリヤ・アブハジア「国防相」及びジャブシバ・アブハジア「内務相」とそれぞれ会談、沿ドニエストルとアブハジアの「省庁」間交流等につき協議。
- ・5日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、グバリオフ露沿ドニエストル問題担当特使と会談、沿ドニエストル問題解決プロセスと展望、9月末にモスクワで開催が予定される「5+2」者協議の準備等につき協議。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。  
(了)